

中京大学大学院
人文社会科学研究所 経済・経営学専攻
修士課程
一般選抜

【専門科目】

「専門外書読解」「専門基礎」「経済成長論（志望専門分野）」

試験時間120分(10:00～12:00)

《受験上の注意事項》

一般注意

- ① 受験票は、机の右上に置いてください。
- ② 指示があるまで問題を開かないでください。
- ③ すべての解答用紙に、受験番号と氏名を正しく記入してください。
- ④ 解答は、必ず解答用紙に記入してください（問題用紙に記入しても採点されません）。
- ⑤ 問題文中に特に指示がない場合は、日本語で解答してください。
- ⑥ 試験中は監督者の指示に従ってください。
- ⑦ 試験中、質問等がある場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
- ⑧ 試験終了の指示があったら、ただちに解答用紙への記入をやめてください。
- ⑨ 配付した試験問題は、すべて回収します。

問題について

- ① 問題用紙は本紙を含め全6枚あります。開始の合図があったら、まずすべての枚数がそろっているかを確認し、乱丁・落丁がある場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。
- ② 解答用紙は【専門外書読解用】（1枚）と【専門基礎用】（3枚）と【経済成長論（志望専門分野）用】（2枚）に分かれています。解答用紙が複数になる場合、解答用紙右上の＜No.＞に番号を記入してください。また、解答用紙が追加で必要となる場合は、手を挙げて監督者に申し出てください。

机の上に置いて良いもの

- 受験票
- 筆記用具
- 時計（時間を計る以外の機能が付いたものは不可）
- 英和辞典1冊

※これらのもの以外はカバンの中に入れ、床に置いてください。眼鏡、薬、ハンカチ等を机の上に置くことを希望する場合は、監督者に申し出てください。

2025 年度 人文社会科学部研究科経済・経営学専攻修士課程 前期日程入試問題
一般選抜「専門科目」【専門外書読解】

〔I〕

次の英文を全て日本語に訳しなさい。

この問題文は、著作権の都合により掲載しておりません。
問題文をご覧になりたい場合は、中京大学教務センター（大学院事務
担当）窓口において閲覧することができます（ただし複写はできま
せん）。

（出典）

2025 年度 人文社会科学研究科経済・経営学専攻修士課程 前期日程入試問題

一般選抜「専門科目」【専門基礎】

〔Ⅰ〕

完全競争市場において、ある財に対する市場の需要曲線と供給曲線がそれぞれ、

$$D = 120 - P$$

$$S = 2P$$

で与えられるとする。ここで、

D : 需要量 S : 供給量 P : 価格

である。この財に対して 1 単位あたり 15 の従量税が売り手に課されたとき、市場均衡価格および社会的余剰を求めなさい。

〔Ⅱ〕

ある国のマクロ経済モデルが次のように与えられるとする。

$$Y = C + I + G$$

$$C = 10 + 0.8Y$$

$$I = 30$$

ここで、

Y : 国民所得 C : 消費 I : 投資 G : 政府支出

である。政府支出を 10 だけ増やしたとき、国民所得はどれだけ増えるか。

〔Ⅲ〕

ある経済のマクロ的生産関数が

$$Y_t = A_t K_t^{0.3} L_t^{0.7}$$

で与えられるとする。ここで、

Y_t : 生産量 A_t : 全要素生産性 K_t : 資本ストック L_t : 労働投入量

である。また、添え字の t は時間を表す。この経済における生産量の増加率が 3%、資本ストックの増加率が 2%、労働投入量の増加率が 1% であるとき、全要素生産性の増加率はいくらになるか。

2025 年度 人文社会科学研究科経済・経営学専攻修士課程 前期日程入試問題
一般選抜「専門科目」【経済成長論（志望専門分野）】

〔Ⅰ〕離散時間におけるソローモデルについて考え、以下のように想定する。

生産関数： $Y_t = K_t^\alpha (A_t L_t)^{1-\alpha}$

Y_t ：t期の生産水準（Yの価格は1に基準化する）

K_t ：t期の資本ストック

L_t ：t期の労働人口

A_t ：t期の技術水準

α ： $1 > \alpha > 0$ を満たす定数

家計の行動： $S_t = sY_t$

S_t ：t期の貯蓄

s ：一定の貯蓄率

資金市場の均衡条件： $S_t = I_t$

I_t ：t期の投資

生産要素市場：企業は価格受容者として行動し、生産要素市場は完全雇用

資本の蓄積式： $K_{t+1} - K_t = I_t$

技術進歩：技術水準 A_t は一定率 $g_A > 0$ で外生的に成長する

人口成長：労働人口 L_t は一定率 $n > 0$ で外生的に成長する

t期の効率労働1単位当たりの資本ストック： $k_t \equiv K_t/A_t L_t$

t期の効率労働1単位当たりの生産水準： $y_t \equiv Y_t/A_t L_t$

このとき、以下の問いに答えよ。

- (1) 効率労働1単位当たりの資本ストックの動学式を導出しなさい。
- (2) 定常状態における効率労働1単位当たりの資本ストックの値を導出しなさい。
- (3) 定常状態における効率労働1単位当たりの生産水準を導出しなさい。
- (4) 定常状態における Y_t/L_t と K_t/L_t の成長率を導出しなさい。
- (5) 定常状態における Y_t と K_t の成長率を導出しなさい。

〔Ⅱ〕 以下のような設定の離散時間の世代重複モデルを考える。

個人の寿命：各個人は若年期と老年期の 2 期間だけ生き、その後死亡する。

若年期の個人の行動：1 単位の労働を非弾力的に供給し、労働所得を貯蓄と消費に振り分ける。

老年期の個人の行動：労働供給は行わず、若年期の貯蓄の元金とその利子所得を用いて消費を行う（ただし、次の世代への遺産はゼロと仮定する）。

人口：每期個人が生まれ t 期には L_t だけの個人が生まれる。 t 期に生まれた世代を t 世代と呼ぶ。また、每期生まれる個人の数是一定の成長率 $n > 0$ で外生的に成長する。

財生産における仮定：財生産は固定費用がゼロかつ完全競争下で行われる。また、財は資本と労働から生産され生産関数は以下のように与えられているとする。

$$Y_t = K_t^\alpha L_t^{1-\alpha}$$

Y_t : t 期の生産水準 (Y の価格は 1 に基準化する)

K_t : t 期の資本ストック

L_t : t 期の労働人口

α : $1 > \alpha > 0$ を満たす定数

生産要素市場：完全雇用

t 期の 1 人当たりの資本ストック : $\bar{k}_t \equiv K_t/L_t$

t 期の 1 人当たりの生産水準 : $\bar{y}_t \equiv Y_t/L_t$

このとき、以下の問いに答えよ。

(1) t 世代の個人の効用関数が以下のように与えられているとする。

$$U(c_t^y, c_{t+1}^o) = \ln c_t^y + \frac{1}{1+\rho} \ln c_{t+1}^o$$

ここで、 c_t^y は t 世代の若年期の個人の消費であり、 c_{t+1}^o は t 世代の老年期の個人の消費であり、 $\rho > 0$ は主観的割引率である。このとき、 s_t を t 世代の若年期の個人の貯蓄、 w_t を t 期の賃金率、 r_t を t 期の利子率として、予算制約式のもとで t 世代の

個人の効用関数を最大化する貯蓄 s_t (貯蓄関数) を導出せよ。

(2) 企業の利潤最大化条件を導出し、導出した利潤最大化条件を t 期の 1 人当たりの資本ストックを用いて表しなさい。

(3) t 期の資本ストックが以下の式で決まるとする。

$$K_t = s_{t-1}L_{t-1}$$

このとき、1 人当たりの資本ストックの動学式を導出しなさい。

(4) 定常状態における 1 人当たりの資本ストックと 1 人当たりの生産水準の値を導出しなさい。